

津田駒工業株式会社野々市工場増築用地に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

粟田遺跡 (第16次調査)

2009

津田駒工業株式会社
石川県野々市町教育委員会

粟 田 遺 跡 (第16次調査)

2 0 0 9

津田駒工業株式会社

石川県野々市町教育委員会



調査区南側全景(南西から)



調査区北側全景(東から)

例 言

- 1 本書は、粟田遺跡（第16次）埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県石川郡野々市町粟田地内である。
- 3 調査原因は津田駒工業株式会社野々市工場増築に係るものである。
- 4 調査にかかる費用は、津田駒工業株式会社が負担した。
- 5 調査は、津田駒工業株式会社からの依頼を受けて野々市町教育委員会が実施した。
- 6 現地調査は、平成19年度に実施した。遺跡名・面積・期間・担当者は下記のとおりである。

遺跡名 粟田遺跡（第16次）
期 間 平成19年4月16日～平成19年12月18日
面 積 6,026㎡
担当者 永野勝章 野々市町教育委員会文化課 主査

- 7 出土品整理は平成20年度に野々市町教育委員会が実施した。
- 8 報告書の刊行は平成20年度に野々市町教育委員会文化振興課が実施した。編集・執筆は永野勝章（野々市町教育委員会文化振興課 主査）が行った。
- 9 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅱ系に準拠している。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3) 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真で対応する。
 - (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
- 10 調査に関する記録と出土遺物は、野々市町教育委員会が一括して保管・管理している。

目 次

第1章 経過	1
第1節 調査の経過	1
第2節 発掘作業の経過	2
第3節 整理作業の経過	2
第4節 調査体制	2
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	6
第1節 調査の方法	6
第2節 基本層序	6
第3節 遺構	6
第4節 遺物	10
第4章 総括	11
遺物観察表	13
図面図版 遺構・遺物実測図	14

挿図目次

第1図	調査区位置図	1
第2図	遺跡の位置	3
第3図	野々市町の遺跡	5
第4図	グリッド図 (1/300)	14
第5図	全体平面図 (1/300)	15
第6図	平面図 (1) (1/120)	16
第7図	平面図 (2) (1/120)	17
第8図	平面図 (3) (1/120)	18
第9図	平面図 (4) (1/120)	19
第10図	平面図 (5) (1/120)	20
第11図	平面図 (6) (1/120)	21
第12図	平面図 (7) (1/120)	22
第13図	平面図 (8) (1/120)	23
第14図	平面図 (9) (1/120)	24
第15図	平面図 (10) (1/120)	25
第16図	南側壁面土層断面図 (1/20)	26
第17図	遺構実測図 1・4号竪穴建物 (1) (1/40)	27
第18図	遺構実測図 1・4号竪穴建物 (2) (1/40)	28
第19図	遺構実測図 2号竪穴建物 (1/40)	29
第20図	遺構実測図 3・5号竪穴建物 (1/40)	30
第21図	遺構実測図 6号竪穴建物 (1) (1/40)	31
第22図	遺構実測図 6号竪穴建物 (2) (1/40)	32
第23図	遺構実測図 7・8号竪穴建物 (1/40)	33
第24図	遺構実測図 1・3号掘立柱建物 (1/60)	34
第25図	遺構実測図 2号掘立柱建物 (1/60)	35
第26図	遺構実測図 4・5号掘立柱建物 (1/60)	36
第27図	遺構実測図土坑2081・2102・2103・2956 (1/40)	37
第28図	遺構実測図ピット1372・2137・2549・3082 (1/40)	38
第29図	遺構実測図道路状遺構・溝2571・2957 (1/300・1/80)	39
第30図	遺構実測図平行溝群A・B (1/200・1/40)	40
第31図	遺物実測図 (1) (1/3)	41
第32図	遺物実測図 (2) (1/3)	42
第33図	遺物実測図 (3) (1/3)	43
第34図	遺物実測図 (4) (1/3)	44
第35図	遺物実測図 (5) (1/3)	45
第36図	遺物実測図 (6) (1/3)	46
第37図	遺物実測図 (7) (1/3)	47

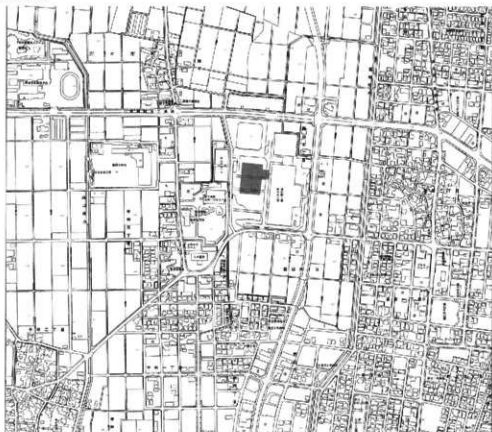
第1章 経過

第1節 調査の経過

栗田遺跡は昭和63年の旧農業試験場跡地の造成整備事業にかかる埋蔵文化財分布調査（石川県立埋蔵文化財センター実施）によって発見された遺跡である。津田駒工業株式会社（以下、津田駒工業）が工場を建設することとなり、平成元・2年に石川県立埋蔵文化財センターと野々市町教育委員会（以下、町教育委員会）によって工場部分等を対象に発掘調査が行われた。

平成17年6月、津田駒工業から町教育委員会に、同社敷地内において将来的に工場を増築する際の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて問い合わせがあった。津田駒工業と町教育委員会は対象地内で試掘確認調査を実施することとし、6月20日津田駒工業より町教育委員会にあてて試掘調査の依頼がなされた。これを受け町教育委員会は6月23日試掘調査を実施し、ほぼ全域が埋蔵文化財包蔵地であることを確認し、工場増築の際には町教育委員会と協議する旨を回答した。

平成18年8月、津田駒工業から工場の増築を行いたいとの連絡があった。計画では工場増築部分全域の埋蔵文化財が影響を受けるため、双方協議の結果、平成19年度に工場増築部分約6,000㎡の発掘調査を行い、平成20年度に出土遺物の整理と報告書の刊行を行うことで合意し、12月15日に協定書を締結した。12月19日に津田駒工業から文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘の届出が提出され、町教育委員会はこれに発掘調査を行う旨の意見を付して石川県教育委員会に進達した。12月28日石川県教育委員会より発掘調査を実施する旨の通知があった。平成19年4月2日、津田駒工業より発掘調査依頼が出され、同日津田駒工業と町教育委員会の間で埋蔵文化財発掘調査の契約が締結された。



第1図 調査区位置図

第2節 発掘作業の経過

今次調査は東隣で操業中の工場に支障を来たさないように、北・南・東の3つの調査区に分けて順に調査を行った。

- 4月16日 北側調査区の表土除去を開始する。
- 5月8日 作業員による調査開始。
- 6月11日 2号堅穴建物掘削。
- 6月18日 1号堅穴建物掘削。
- 7月23日 野々市中学校2年生5名、職場体験 7月26日まで
- 8月3日 第1回の航測を行うも、強風のため途中で中止する。
- 8月5日 再び航測を実施。今回は天候もよく無事終了する。
- 8月7日 南側調査区表土除去開始。
- 9月5日 作業員による調査開始。
- 10月2日 5号掘立柱建物掘削。
- 10月5日 6号堅穴建物掘削。
- 11月7日 第2回航測。
- 11月12日 東側調査区の表土除去を開始。
- 11月19日 作業員による調査開始。
- 12月7日 道路状遺構掘削。
- 12月12日 第3回航測。
- 12月18日 機材整理・搬出。発掘調査を終了する。

第3節 整理作業の経過

平成20年4月15日、津田駒工業と町教育委員会は前年度に行った発掘調査の出土遺物整理と報告書刊行の契約を締結した。遺物整理は4月から11月まで実施した。その後図版作成、遺物写真撮影、原稿執筆等報告書作成作業を行った。

第4節 調査体制

調査主体 野々市町教育委員会（教育長 田中 宣：平成20年3月30日まで）
（教育長 村上維喜：平成20年3月31日から）

担当課 野々市町教育委員会 文化振興課（課長 西本 正明）

調査期間 平成19年4月16日～同年12月18日

対象面積 6,026㎡

調査担当：永野勝章

整理・報告書作成作業

担 当 永野勝章

竹田倫子・野村祥子（野々市町教育委員会 臨時職員）

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

野々市町は、石川県のおお中央に位置する。北東は金沢市、南西は白山市に隣接している。町の規模は東西約4.5km、南北6.7km、面積13.56km²である。本書で報告する粟田遺跡は野々市町の南部にあたる粟田地区に所在する。このあたりは標高36m手取扇状地扇尖部に立地し、現況は宅地・商業地と水田が広がる平坦な地形であるが、これは近代初頭に行なわれた耕地整理と近現代の土地開発によるもので、それ以前は手取川とその支流によって形成された細長い島状の微高地が点在し、その微高地上に集落が展開してきたことが近年の発掘調査から明らかになってきている。



第2図 遺跡の位置

第2節 歴史的環境

野々市町における最も古い遺跡は、縄文時代後期前葉後半にあたる押野大塚遺跡である。後期中葉前半以降になると、扇状地扇端部の湧水地帯では御経塚遺跡や金沢市チカモリ遺跡、米泉遺跡などの集落遺跡が形成される。一方、扇尖部付近では、野々市町南部・中南部の各遺跡や富樫館跡ノダ地区・清金アガトウ遺跡などから少量の土器や打製石斧を出土する明確な居住施設を伴わない、短期的な土地利用の痕跡が確認されている。粟田遺跡や三納アラミヤ遺跡では打製石斧や円礫を母岩、石器製作に伴うと見られる剥片が確認されており、打製石斧の素材採取地や石器製作地と考えられている。

こうした扇端部の湧水地帯における集落と、その周辺部での短期的な活動痕跡という遺跡群の立地と性格の結びつきは、縄文時代晩期頃まで継続する。

弥生時代前～中期では、野々市町を含む手取扇状地では、押野大塚遺跡や御経塚シンデン遺跡、御経塚遺跡ツカダ地区、粟田遺跡、上林遺跡など、土器片が少量散布する遺跡が知られるのみとなる。一方で白山市八田中遺跡や金沢市矢木ジワリ遺跡など土坑群や定量の遺物が出土する遺跡が見られるようになるが、散発的な様相である。

弥生時代後期になると鉄器の普及による生産力の向上から人口が増加し、河川に挟まれた微高地に立地する集落が爆発的に増加し、高橋川・伏見川流域で、押野ウマワタリ遺跡・押野タチナカ遺跡・横川・本町遺跡・高橋セボネ遺跡・扇ヶ丘ゴシヨ遺跡、十人川・馬場川流域では、御経塚遺跡ツカダ地区・御経塚遺跡デト地区・御経塚オツン遺跡・二日市イシバチ遺跡・長池ニシタンボ遺跡などの遺跡が現れる。

古墳時代前期に入ると、遺跡数は減少する傾向を見せる。手取扇状地周辺では、扇端部付近の標高10メートル付近のラインにはほぼ沿うように遺跡が並ぶ傾向にある。御経塚シンデン遺跡は弥生時代後期から古墳時代初頭の集落と古墳時代前期の墓域が検出される遺跡であり、扇端部では該期の中心的な遺跡である。また同時期の集落として扇尖部では小規模ながら堅穴建物が検出された上新庄ニシウラ遺跡が知られている。後に、御経塚シンデン遺跡では古墳時代前期の前方後方墳・方墳

からなる古墳群の墳丘を破壊して、古墳時代後期の集落が形成されている。一方、扇尖部では上林古墳や白山市田地古墳など横穴式石室を伴う後期古墳が点在することが知られているが、築造主体となる集落が確認されておらず、野々市町南部における古墳時代集落の様相は明らかではない。

古代は、栗田遺跡・清金アガトウ遺跡など扇状地扇尖部の集落の多くが開始され、扇尖部の開発が進んだ時期である。なかでも扇状地開発のモニュメントとも言われる末松廃寺は、法起寺式伽藍配置で7世紀後半に創建、8世紀初頭まで存続したとされる。周辺では末松福正寺遺跡、末松ダイカン遺跡など7世紀前半代の集落跡も確認されているが、遺跡数が増えるのは7世紀後半からであり、8世紀になると栗田遺跡の南に位置する上林・新庄遺跡群で集落が拡大する。この上林・新庄遺跡群は北と南でその様相を異にし、南は製鉄にかかわる竈穴住居と掘立柱建物から成る手工業生産地区、北は溝に区画された計画的な建物配置やその後9世紀後半にかけて機能する大型建物を有し周辺を掌握する領土層が存在した地区であったことが窺える。

中世は、野々市町東部には扇が丘ハイゴク遺跡・扇ヶ丘ゴシヨ遺跡など居館クラスの遺跡が検出されており、林氏などの有力武士の居宅と考えられている。野々市町住吉町と扇ヶ丘地内には加賀の守護であった富樫氏の屋敷と考えられる富樫館跡が存在する。館の性格を明示できるような成果は上がっていないが、守護城下町の構造に関連づけられる都市構造の一端が判明しつつある。野々市町中部では13世紀から三納ニシヨサ遺跡・三納トヘイダゴシ遺跡などの集落跡が確認されている。これらは輸入磁器を一定量所持し、集落内には小規模な掘立柱建物を配置するもので、その実態は自作農的な小領主と考えられる。

中世後半では、野々市町北部では三日市A遺跡・長池キタノハシ遺跡などから、野々市町南部では栗田遺跡の一角からそれぞれ近年の調査で集落跡が確認されている。

近世でも栗田の集落は確認されるが『石川郡誌』には、鎮守神社の西側にあった村を、栗田川の氾濫のため村全部を栗田新保に移した、という伝承が書き留められおり、その後は水田等耕作地として利用されていたようである。

近現代は、大正時代はこのあたりの耕地整理が終了して再び水田となり、昭和37年(1962年)から61年までは石川県農業試験場がこの地に設置され、農業研究の拠点として利用されていた。

文献 野々市町 2003 『野々市町史』資料編

野々市町 2006 『野々市町史』通史編

No.	遺跡名	時期	No.	遺跡名	時期
1	栗田遺跡	縄文・古代・中世・近世	29	扇内宮跡	縄文・中世・近世
2	一納アツミヤ遺跡	縄文・古代・中世・近世・現代	30	扇中アツミヤ遺跡	縄文・古墳
3	三納トヘイダゴシ遺跡	縄文・中世・近世	31	寶蔵キツネヤク遺跡	縄文・古墳
4	扇中田シラフツシ遺跡	中世	32	扇中田遺跡	縄文・中世・近世
5	三納ニシヨサ遺跡	中世	33	扇中ヒヤダラタ遺跡	古代・中世
6	下林アヲチ遺跡	古代	34	扇中ヒノイボタ遺跡	縄文・古墳・古代・中世
7	下林田ナチヨサ遺跡	古代	35	扇中長コソ遺跡	古墳・古代・中世
8	北林古墳群	古代	36	扇中バダツタ遺跡	縄文
9	上林古墳群	古代・中世	37	山田遺跡	縄文・中世
10	上林田ニラウ遺跡	縄文・古墳・古代	38	扇中セウホ遺跡	古墳・古代
11	上林アヲチ遺跡	古代	39	扇中末松遺跡	古墳・中世
12	上林遺跡	古代・古墳	40	扇中末松遺跡	古墳・中世
13	富樫寺遺跡	古代・古墳	41	神宮下アツミヤ遺跡・神宮館跡	縄文・古墳・中世
14	清金アガトウ遺跡	縄文・古代・中世	42	神野大塚遺跡	縄文・古墳
15	末松アヲチ遺跡	縄文・古代・中世	43	上京寺跡	中世
16	末松古墳群	古代・中世	44	神宮寺遺跡	縄文
17	水田遺跡	古代	45	三井寺遺跡	縄文・古墳・古代・中世
18	末松福正寺遺跡・末松寺跡	古代	46	三日市人権跡	縄文・古墳・古代・中世・近世
19	末松アヲチ遺跡	古代	47	自由シラフツシ遺跡	縄文・古墳・中世・近世
20	末松遺跡	古代	48	神宮寺遺跡	古代・中世
21	心丸遺跡	古代・西代・中世・近世	49	扇中アツミヤ遺跡	古代・中世
22	心丸遺跡	古代	50	扇中アツミヤ遺跡	古墳・中世・近世
23	末松古墳	古墳	51	扇中ニシヨサ遺跡	縄文・古墳・古墳・中世・近世
24	末松シラフツシ遺跡	古代・近世	52	神宮寺遺跡	古代・中世
25	法起寺跡	古代	53	神宮寺遺跡	縄文・古墳・古墳・古代・中世・近世
26	末松寺跡	古代	54	扇中末松遺跡	縄文
27	大塚遺跡	古代・中世	55	扇中末松遺跡	縄文・古墳・中世・近世
28	三井遺跡	中世			

野々市町の遺跡



第3圖 野々町の遺跡 (1/30,000)

第3章 調査の成果

第1節 調査の方法

今次調査は前述のように北・南・東の3つの調査区に分割して調査を実施した。調査区ごとに遺構面までの土砂を重機によって除去し、公共座標に基づく10×10mのグリッドを設定した。グリッド番号は南北方向には数字を、東西方向にはアルファベットを割り振り、北西隅のグリッド番号でその区画を呼称した。グリッド設定と同時に人力による調査を開始し、遺構検出、1/100の遺構分布図を作成した。個々の遺構の名称は時代・種類・グリッドに関係なく1から通して調査番号を付けている。遺構掘削は、基本的に遺構を半裁して断面の観察を行って土色や堆積状況を観察し、必要に応じて写真や図面による記録保存を行った。遺跡全体の測量は株式会社北日本ジオグラフィーに委託して空中写真測量を実施した。

整理作業は野々市町御経塚にある野々市町ふるさと歴史館内の調査整理室において、出土遺物の洗浄、出土地点等の注記、復元、主要遺物の実測図作成、遺物・遺構実測図のトレースの順で行った。遺物の総数は、パンケースで、11箱である。

報告書について遺構の説明は本文・図面図版・写真図版を用いる。遺構の種類には堅穴建物・掘立柱建物・土坑・ピット・道路状遺構・溝・平行溝群などがあり、これらについて位置・分類・規模・形状・覆土の堆積状況・出土遺物・重複とその前後関係などを記述した。遺物の記述は、本文・観察表・図面図版・写真図版でおこなった。遺物の報告番号は1から付与し、本文・観察表・図面図版・写真図版で共通する。

観察表は遺物の種類によって観察項目は異なるが、煩雑を避けるため表は統一の形式を取り、そのつど、外面色調：外、内面色調：内、釉色もしくは釉の種類：釉、と付して区別した。遺物図版作成にあたっては出土遺構毎にレイアウトしている。遺物図版の縮尺は原則1/3とし、石製品など大型のものは1/6で掲載した。

第2節 基本層序

今次調査区の基本的な層序は第16図のとおりである。現在の地表から1. 盛土層、2・3. 耕作土層、4. 旧耕作土層、5・6・7・8は灰色～灰褐色土層、9・10・12. 暗灰褐・暗褐・黒褐色土層、13. 黒色土層の順で堆積している。1の盛土層は工場が建設された際に施されたものである。2・3及び4は近世～現代にかけて耕作土層である。当地は昭和62年まで石川県農業試験場実験圃場として使用されており、2・3についてはその時期の土層、4についてはそれ以前の耕作土である。5・6・7・8は灰色～灰褐色土を主体としており、近隣での調査から近世の土層に当たると思われる。9・10・12は褐色系を主体としており、本遺跡の中心である古代の土層と判断する。13は調査区西側を南北に走る鞍部に相当する層で古代より古い時期である。

第3節 遺構

粟田遺跡は縄文時代・古代・中世・近世の時期からなる遺跡であるが、本書で報告する粟田遺跡第16次調査は古代を主体とする。調査区の西側は旧の谷地形となっており目立った遺構はない。中

央から東側にかけてはところどころに礫原の混じる微高地が伸びており、扇状地特有の地形を示している。この微高地上に竪穴建物・掘立柱建物・土坑・ピット・道路状遺構・平行溝群・溝といった遺構が所在する。このうち竪穴建物や掘立柱建物といった建物は道路状遺構を挟んで北側と南側に分布している。調査区南西にはコンクリートの基礎と、そこから北と東の方向を指す近現代の流路があり、昭和時代にこの地にあった石川県農業試験場関係の施設跡である。

(1) 竪穴建物

1号竪穴建物 (第17・18図)

D0・D1・E0・E1グリッドに位置する。東西5.3m、南北は4.3m以上で北側は調査区外に伸びている。1号竪穴建物内に4号竪穴建物が重複して位置しており、土層断面から1号竪穴建物のほうが古い。深度は約15cmで壁の立ち上がりは比較的ゆるやかである。軸はN-3°-Wである。覆土は稍明るい暗褐色土を主とする。カマドは確認されなかった。床面の状況も4号竪穴建物によって破壊されているため詳細は不明だが、破壊を免れた北側部分から貼床と思われる硬化面が確認されている。須恵器無台杯 (1)、土師器 (2) が出土している。

2号竪穴建物 (第19図)

E5・F5グリッドに位置する。平面形は長方形で、長軸4.7m、短軸4.1m、面積は19.3㎡を測る。深度は約25cmで壁の立ち上がりは明瞭である。軸はN-18°-Wである。覆土は褐色土・暗褐色土を主とする。カマドは南東隅に設けられており、規模はおおむね長さ90cm、幅170cmとなる。貼床は北端・西端を除くほぼ全域で確認された。出土遺物は須恵器無台杯 (3)、杯 (4・5)、瓶類 (6)、土師器釜・小釜 (7~16)、鍋 (17)、炉石 (18)、土錘 (19) である。

3号竪穴建物 (第20図)

D1グリッドに位置する。平面形は長方形で、長軸3.2m、短軸2.6m、面積は8.3㎡を測る。深度は約60cmで壁の立ち上がりは直立もしくは稍内傾している。軸はN-18°-Wである。覆土は褐色土を中心とする。カマドは確認されていない。貼床は北端・西端を除くほぼ全域で確認された。須恵器杯 (20・22)、瓶類 (21) を出土した。

4号竪穴建物 (第17・18図)

D0・D1・E0・E1グリッドに位置し、1号竪穴建物内に重複して所在する。土層断面から1号竪穴建物より新しい。平面形は一辺が3.4mの正方形で、面積は11.6㎡を測る。深度は約60cmで壁の立ち上がりは明瞭である。軸はN-2°-Wである。覆土は暗褐色土・黒褐色土を中心とする。カマドは南東隅に設けられており、規模はおおむね長さ70cm、幅110cmを測る。貼床はほぼ全域で確認された。出土遺物は須恵器無台杯 (23~27)、椀 (28)、釜・小釜 (29~35)、須恵器甕 (36) である。

5号竪穴建物 (第20図)

F6グリッドに位置する。平面形はほぼ正方形で、長軸2.7m、短軸2.6m、面積は7㎡を測る。深度は約15cmで壁の立ち上がりは比較的明瞭である。軸はN-21°-Wである。覆土は暗褐色土を主とする。カマドは確認されなかった。建物内の東側を中心に貼床が確認された。出土遺物は少なく、実測しえたものは土師器釜 (37) のみである。

6号竪穴建物 (第21・22図)

E8・E9グリッドに位置する。平面形は長方形で、長軸6.0m、短軸4.1m、面積は24.6㎡と、今次調査中では最大規模の竪穴建物である。深度は約20cmで壁の立ち上がりは明瞭である。軸はN-30°-Wである。覆土は褐色土・暗褐色土を主とする。カマド自体は確認していないが、南東隅で多数の

土器片や焼土を確認しており、南東隅にカマドがあったと思われる。中央から南側にかけて貼床を確認した。土師器釜・小釜（38～42）、鍋（43）が出土している。

7号竪穴建物（第23図）

G5・G6グリッドに位置する。平面形は歪な方形で、長軸3.1m、短軸3.0m、面積は9㎡を測る。深度は約25cmで壁の立ち上がりは比較的明瞭である。軸はN-2°-Wである。覆土は暗褐色土を主とする。カマドは確認していない。出土遺物はない。

8号竪穴建物（第23図）

G7グリッドに位置する。平面形は歪な方形で、長軸2.9m、短軸2.3m、面積は6.7㎡を測る。深度は約20cmで壁の立ち上がりはそれほど明瞭ではない。軸はN-1°-Wである。覆土は暗褐色土を主とする。カマドは確認していない。土師器の小片が若干出土している。

(2) 掘立柱建物

今次調査では5棟の掘立柱建物を検出している。出土遺物は極めて少ないため遺物から時期の特定することはできないが、遺構の覆土や形状、周辺の状況によっていずれも古代の掘立柱建物と考えられる。

1号掘立柱建物（第24図）

D1・E1グリッドに位置する側柱建物である。桁行3間、梁行2間である。軸はN-13°-Wである。桁行は5.1m、梁行は4.0m、柱間距離は桁行1.7m、梁間2.0mで、面積は20.4㎡を測る。柱穴は円形ないし隅丸方形で、径は30～60cm、深さは約45cm、覆土は暗褐色土・黒褐色土を主とする。柱穴の底はいずれも硬く締まっている。718・722より土師器の小片が出土している。

2号掘立柱建物（第25図）

E6・E7グリッドに位置する側柱建物である。すぐ北に5号竪穴建物が所在している。規模は桁行4間、梁行2間で、軸はN-19°-Wである。桁行は8.0m、梁行は4.8m、柱間距離は桁行2.0m、梁間2.4mで、面積は38.4㎡を測る。柱穴は円形ないし隅丸方形で、径は40～50cm、深さは12～34cm、覆土は暗褐色土を主とする。遺物の出土はない。

3号掘立柱建物（第24図）

E7・E8グリッドに位置する総柱建物である。桁行、梁行とも2間である。軸はN-19°-Wである。桁行は4.0m、梁行は3.6m、柱間距離は桁行2.0m、梁間1.8mで、面積は14.4㎡を測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径は28～50cm、深さは10～45cm、覆土は暗褐色土を主とする。遺物の出土はない。

4号掘立柱建物（第26図）

E9・F9グリッドに位置する側柱建物である。検出した規模は3×3間だが南側が調査区外に伸びているため全体の規模は分からない。軸はN-23°-Wである。桁行は5.0m以上、梁行は3.9m、柱間距離は桁行1.7m、梁間1.3mを測る。柱穴は円形や不整形で、径は16～50cm、深さは30～45cm、覆土は暗褐色土を主とする。出土遺物はない。

5号掘立柱建物（第26図）

F8グリッドに位置する側柱建物である。北東隅の柱穴は近代溝によって破壊されている。規模は桁行3間、梁行3間で、軸はN-20°-Wである。桁行は6.3m、梁行は4.8m、柱間距離は桁行2.1m、梁間1.6mで、面積は30.2㎡を測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径は26～68cm、深さは30～45cm、覆土は褐色土・暗褐色土を主とする。遺物の出土はない。

(3) 土坑

2081 (第27図)

G8グリッドに位置する。平面形は不整形である。規模は1.8×1.4m、深度は22cmを測る。覆土は褐色土を主とする。出土遺物はない。

2102 (第27図)

G8グリッドに位置する。平面形は歪な方形である。2103を切っている。規模は1.8×1.4m、深度は30cmを測る。覆土は褐色粘質土で礫が混じる。打製石斧(62)が出土している。

2956 (第27図)

E9グリッドに位置する。南側は調査区外に伸びている。検出した規模は2.5×0.8m、深度は40cmである。覆土は暗褐色土である。土師器小釜(54・55)が出土している。

(4) ビット

1372 (第28図)

D1グリッドに位置する。平面形は歪な楕円形である。2つのビットが複合したものか。規模は72×42cm、深度は28cmを測る。覆土は黒褐色土である。須恵器杯・有台杯(47・48)が出土している。

2137 (第28図)

G9グリッドに位置する。平面形は楕円形である。規模は98×74cm、深度は30cmを測る褐色土・暗褐色土を主とする。覆土は黒褐色土である。出土遺物はない。

2549 (第28図)

E5グリッドに位置する。平面形は楕円形である。規模は68×47cm、深度は31cmを測る。覆土は暗褐色土である。須恵器杯(51)が出土している。

3082 (第28図)

D7グリッドに位置する。平面形は楕円形である。規模は64×27cm、深度は20cmを測る。覆土は暗褐色土である。土師器小釜(56)が出土している。

(5) 道路状遺構

道路状遺構 (第29図)

E4グリッドからJ2グリッドにかけて東北東から西南西に伸びる平行な2条の溝を検出した。途中溝が途切れる箇所もあるが道路状遺構と判断した。東側は調査区外に伸びているが、西側はD4・D5グリッドあたりで途切れている。検出した長さは約60m、幅は4.6～5.2m、軸はN-62°-Eである。道路面からは硬化面は確認されなかった。北側の溝は幅30～110cm、深さはおおむね20～40cmである。南側の溝は幅55～130cm、深さは20～40cmだが、一部で60cmを超えるところがある。土色は褐灰色土・暗褐灰色土を主とする。遺物はほとんど確認できず、圀化するものはなかった。

(6) 溝

2571 (第29図)

D5・E5グリッドに位置する。南側は近代溝によって破壊されており、東に湾曲して北に向かっていいる。検出した長さは約15m、幅は40cm、深さは40cmを測る。覆土は黄色土・明褐色土を主とする。2571は道路状遺構南側溝に切られており、道路状遺構が機能していた時期には既に埋まっていたようである。出土遺物はない。

2957 (第29図)

D5グリッドに位置する。道路状遺構南側の溝にそのまま続くようであるが、方向がやや南を向き、溝の幅も最大で60cmと狭い。西側は近代溝によって破壊されているため規模は分からない。覆土は褐灰色土を主とする。遺物の出土はなかった。

(7) 平行溝群

平行溝群A (第30図)

E1・E2・F0～F2グリッドにかけて位置する。長さは2.4～8m、幅は30～50cm、深さは8～24cmを測る。軸はN-18°-W前後で、おおむね南北方向を向く。覆土は暗褐色土を主とする。この平行溝群からは若干の遺物が出土しており、土師器小釜(44)、須恵器有台杯(45)、甕(46)を図化した。

平行溝群B (第30図)

D1グリッドに位置する。近代溝によって切られているため、全体の規模は分からない。検出した長さは1.3～3.5m、幅は30cm、深さは12～24cmを測る。軸はN-78°-W前後で平行溝群Aとは異なり東西方向を向く。覆土は暗褐色土を主とする。出土遺物はない。

第4節 遺物 (第31～37図)

今次調査で出土した遺物の多くが古代の土師器・須恵器であり、他に打製石斧・砥石・近世陶磁器が若干出土した。このうち実測した遺物は71点である。

1は須恵器無台杯である。底部外面に「×」の線刻がある。2は鉄滓である。6は須恵器瓶類で自然軸がかかる。11は土師器小釜で外面は磨耗している。12・13も土師器小釜で外面は剥離が著しい。16は土師器釜で内面に煤が付着する。18はカマド石で被熱痕が残る・19は土錘である。20は須恵器杯で口縁部に重ね焼痕が残る。23は須恵器無台杯である。焼成は不良で磨耗している。28は土師器椀で内外面に赤彩されている。外面には煤が付着する。29は土師器小釜で煤が付着する。31は土師器釜で内外面とも煤が付着し磨耗している。33は土師器釜で外面全体に煤が付着する。34・35も土師器釜で一部に煤が付着する。40は土師器小釜で外面に煤と剥離が見られる。56は内外面赤彩の土師器椀である。57は須恵器瓶類で底部内面に自然軸がかかる。59は縄文深鉢で条痕がある。59・61は肥前磁器碗である。60は肥前陶器碗で呉器手である。62～70は打製石斧で分銅型のものが多い。石質は火山礫凝灰岩が多数を占める。

第4章 総括

縄文・弥生時代

当該期の遺構としては若下の土坑・ピットを検出したのみで建物の跡は確認していない。この辺りの地形は手取川によって形成された扇状地の扇央部であり、地山面はところどころに礫原が広がっている。東隣で行われた既往の発掘調査では多数の打製石斧とその母岩が出土しており、打製石斧の素材採取地と考えられている。今次調査では母岩は確認できなかったが打製石斧は定量出土しており、当該地も打製石斧の素材採取地として利用されていたものと考えられる。

奈良・平安時代

粟田遺跡の主体を占める時期である。今次調査では主要な遺構として5棟の掘立柱建物と8棟の竪穴建物、道路状遺構、平行溝群などを検出している。遺構の詳細な時期については、一部の竪穴建物を除くと出土遺物が極めて少ないため判断は難しい。しかしこれまでに本調査区の近隣において発掘調査が行われており、その様相は明らかになりつつある。よってここでは、既往の調査成果を援用しながら、出土遺物と建物軸を基に遺構の変遷をたどることとする。

I 期

1～6号竪穴建物で構成される。これら竪穴建物の分布は南北の2つに分かれる。まず北側では主軸をほぼ真北にとる1・4号竪穴建物と主軸を西に振る3号竪穴建物からなる。1・4号竪穴建物は同一の場所での建替えであり1号竪穴建物が4号竪穴建物に先行する。3号竪穴建物は1・4号竪穴建物に後続すると見られる。なお、3号竪穴建物は壁面が直立しないしはやや内傾しており、深度も60cmと深く一般的な住居とは考えにくい。一方南側では主軸を西に振る2・5・6号竪穴建物からなる。6号建物は2・5号竪穴建物よりやや後続するようである。田嶋編年のⅢ期～Ⅳ1期に相当する。

II 期

7・8号竪穴建物と1～5号掘立柱建物によって構成され、掘立柱建物を中心とする時期である。建物の分布はI期同様南北の2つに分かれる。北側では主軸を西に振る1号掘立柱建物が確認された。I期に所属させた3号竪穴建物とは切りあっており、確実に後続する。南側ではやはり主軸を西に振る2～5号掘立柱建物を検出した。このうち3号掘立柱建物は2×2間の縦柱建物であり、倉庫的なものであり、或いはI期の6号竪穴建物に付属するものかもしれない。7・8号竪穴建物は主軸がほぼ真北を向く。出土遺物がほとんどないため遺物から存続時期を判断することはできないが、他の竪穴建物と比べると規模が小さく形状も歪である。既往の調査や南隣する下新庄アラチ遺跡の発掘調査によって掘立柱建物を中心とする時期の竪穴建物は規模を縮小しプランも歪雑化する傾向が見られ、7・8号竪穴建物についても同様の傾向を示すものと考えたい。田嶋編年のⅣ1～Ⅳ2新期に相当する。

以上のようにこの時代は竪穴建物を中心とするI期と、竪穴建物から掘立柱建物へと移行するII期に分けることができる。当該期の粟田遺跡は既往調査と同様に、数棟単位の建物が点在する散居村的な集落であったことが確認された。

なお道路状遺構についても明確な出土遺物はほとんどなく時期の特定は難しい。しかし本調査区の東隣で行われた調査によってN-21°-Eを向く道路状遺構を確認しており、今回検出した道路状遺構(N-62°-W)とは直角に近い角度であることを確認している。両者が交差していた形跡は見ら

れなかったが、それぞれの存在を意識して築造されていた可能性があり、同時期に存在していたと考えたい。

中世以降

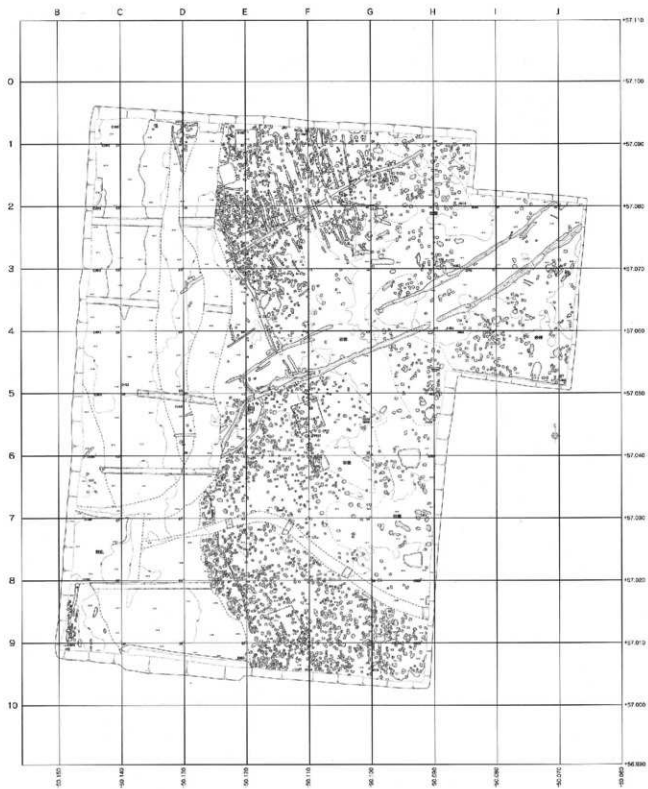
中世以降の遺構はほとんど確認されていない。調査区の西側で南北方向の溝が、また南側で蛇行する東西の溝がそれぞれ検出されている。近世～現代時期の遺物が確認されており、農業用の用水として利用されたのであろう。またこれらの溝の接点からはコンクリートの基礎が確認された。昭和61年までこの地にあった石川県の農業試験場の施設跡である。

参考文献

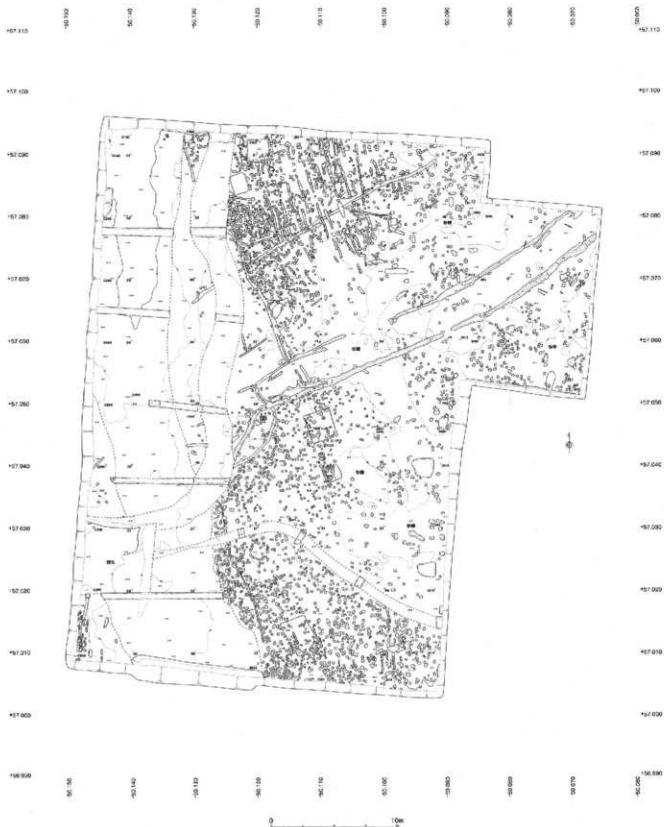
- (社)石川県埋蔵文化財保存協会 1991 『粟田遺跡発掘調査報告書』
石川県教育委員会 (財)石川県立埋蔵文化財センター 2005 『末松遺跡』
小松市教育委員会 2002 『二ツ梨一貫山窯跡』
小松市教育委員会 2006 『額見町遺跡Ⅰ』
野々市町教育委員会 1992 『粟田遺跡第二次発掘調査報告書』
野々市町教育委員会 1998 『上新庄ニシウラ遺跡』
野々市町教育委員会 1999 『下新庄アラチ遺跡』
野々市町教育委員会 2000 『上林新庄遺跡 上林テラダ遺跡 上林古墳 下新庄タナカダ遺跡』
野々市町教育委員会 2000 『粟田遺跡森平地区・清金アガトウ遺跡』
野々市町教育委員会 2006 『粟田遺跡(第10次)・三納アラミヤ遺跡(第1・2次)・三納トヘイダゴシ遺跡(第1・3次)』
野々市町教育委員会 2008 『粟田遺跡(第12・15次)』
野々市町史専門委員会 2003 『野々市町史 資料編1』 石川県野々市町

遺物観察表

調査 番号	出土地点	No.3カ	種名	図録	口径 (mm)	高さ (mm)	足径 (mm)	残存率	色澤	色澤	胎土	備考
1	1号壺穴建物	131・227	灰石器	無内柄	142	36	38	5/9	外：灰白	内：灰白	S-1・M-1	底部×印
2	1号壺穴建物	1	灰石器	無内柄	50	40	36		外：	内：		75g
3	2号壺穴建物	南北寄・南側中・17・86	灰石器	無内柄	116	28	20	1/6	外：灰黄	内：灰黄	S-1・M-1・L-1	
4	2号壺穴建物	95・12・211底	灰石器	柄	138	33	2/9	外：灰黄	内：灰黄	S-1・M-1・L-1		
5	2号壺穴建物	1	灰石器	柄		80	1/3	外：灰白	内：灰白	S-1・M-1		
6	2号壺穴建物	95	灰石器	無内柄		122	1/6	外：褐色	内：黄灰	S-1		
7	2号壺穴建物	29	土師器	無	小片			外：黄灰	内：黄灰	S-1・褐色粒・赤色粒		
8	2号壺穴建物	12	土師器	小蓋	136	1/4	1/4	外：灰黄	内：灰黄	S-1・M-1・褐色粒		
9	2号壺穴建物	12	土師器	小蓋	小片			外：灰黄	内：黄灰	S-1・褐色粒	北同一穴	
10	2号壺穴建物	15・14・オマド編組	土師器	小蓋	112	1/2	1/3	外：灰黄	内：灰黄	S-1・褐色粒		
11	2号壺穴建物	12上層	土師器	小蓋	154	1/4	1/4	外：灰黄	内：灰黄	S-2・M-1・褐色粒		
12	2号壺穴建物	オマド編組	土師器	小蓋	90	底面44径	30	外：灰黄	内：灰黄	S-2・M-1・赤色粒		
13	2号壺穴建物	オマド編組	土師器	小蓋	40	底面30径	40	外：灰黄	内：黄灰	S-1・M-1・赤色粒		
14	2号壺穴建物	12・オマド173・177	土師器	小蓋	142	底面42径	40	外：黄灰	内：黄灰	S-1・M-1・赤色粒		
15	2号壺穴建物	16	土師器	無	228	1/12		外：赤	内：灰白	S-1・褐色粒	灰化物付着	
16	2号壺穴建物	61	土師器	蓋	204	1/6		外：灰黄	内：黄灰	S-1・褐色粒・赤色粒		
17	2号壺穴建物	02・30・9・10・11・30・32	土師器	蓋	300	1/9		外：灰黄	内：灰黄	S-1・褐色粒・赤色粒		
18	2号壺穴建物	12	石製土	卵片	269	174	107		外：	内：		673g
19	2号壺穴建物	94	土師器	上蓋	47	34	30	2/3	外：黄灰	内：黄灰	S-1・褐色粒	
20	2号壺穴建物	30	灰石器	無	130	1/12		外：灰白	内：灰白	S-1		
21	2号壺穴建物	者D中層・下層	灰石器	無内柄		119	1/9	外：オリーブ	内：灰白	S-1		
22	2号壺穴建物	者C上層	灰石器	無	116	1/12		外：灰黄	内：灰黄	S-1		
23	2号壺穴建物	者D	灰石器	無内柄	112	32	104	1/7	外：灰白	内：灰白	S-1	焼成不良
24	2号壺穴建物	112	灰石器	無内柄	162	30	112	1/3	外：灰	内：灰	S-1	焼成不良
25	2号壺穴建物	30	灰石器	無内柄	130	38	1/4	外：灰白	内：灰白	S-1・M-1・L-1		
26	2号壺穴建物	188・218・222	灰石器	無内柄		124	1/2	外：灰黄	内：灰黄	S-2		
27	2号壺穴建物	南側中層	土師器	無	160			外：灰黄	内：灰黄	S-1	赤影	
28	2号壺穴建物	168・北寄	土師器	小蓋	142	1/9		外：灰黄	内：灰黄	S-1・M-1		
29	2号壺穴建物	55	土師器	蓋	194	1/6		外：灰黄	内：灰黄	S-2・褐色粒		
30	2号壺穴建物	202	土師器	無	208	168	1/9	外：灰黄	内：灰黄	S-2・褐色粒		
31	2号壺穴建物	オマド	土師器	小蓋	小片			外：灰黄	内：黄灰	S-2・M-1		
32	2号壺穴建物	1927・495・495・49オマド	土師器	蓋	小片			外：褐色	内：灰黄	S-2・褐色粒		
33	2号壺穴建物	オマド内・13・13・13・13・29・30	土師器	無	240	1/4	1/4	外：灰黄	内：灰黄	S-1・褐色粒		
34	2号壺穴建物	南側中央	土師器	蓋	212	1/3		外：灰黄	内：黄	S-1・M-1・L-1		
35	2号壺穴建物	4925・4号黒帯中央	灰石器	蓋	小片			外：灰黄	内：灰白	S-1		
36	2号壺穴建物	9	土師器	蓋	106	2/9		外：灰黄	内：黄灰	S-1・褐色粒・赤色粒		
37	2925	112	土師器	蓋	小片			外：灰黄	内：灰黄	S-2・M-1		
38	2925	23	土師器	小蓋	137	7/18		外：赤	内：赤	S-2・L-1・石黄		
39	2925	39・82	土師器	小蓋	165	1/5		外：灰黄	内：灰黄	S-2・M-1		
40	2925	11	土師器	小蓋		88	1/3	外：灰黄	内：灰黄	S-2		
41	2925	56・61・29・68	土師器	蓋	250	1/6		外：灰黄	内：灰黄	S-2・M-1		
42	2925	7	土師器	蓋	343	1/6		外：灰黄	内：灰黄	S-2・M-1		
43	2925	7	土師器	小蓋		21	1/3	外：明黄	内：黄灰	S-1・褐色粒・赤色粒	灰化物付着	
44	39	712	灰石器	有内柄		104	7/18	外：灰	内：灰	S-1・M-1		
45	40	822	灰石器	無	328	1/12		外：灰	内：灰	S-1・褐色粒		
46	39	1372	灰石器	無	158	1/9		外：灰黄	内：灰黄	S-1・L-1	47と同一個体	
47	37	1372	灰石器	有内柄		112	1/4	外：灰黄	内：灰黄	S-1・M-1		
48	46	2119	土師器	小蓋	小片			外：灰黄	内：灰黄	S-1・M-1		
49	48	2425	土師器	小蓋	140	1/9		外：灰黄	内：灰黄	S-1・褐色粒		
50	47	2449	灰石器	柄		68	1/3	外：黄	内：灰黄	S-1・M-1・L-1	焼成不良	
51	45	2608・2951	灰石器	無		56	1/2	外：灰白	内：灰白	S-1・M-1・褐色粒		
52	41	2931	灰石器	小蓋	48	5/18		外：灰黄	内：灰黄	S-1・褐色粒・赤色粒		
53	43	2956	土師器	小蓋	68	5/6		外：灰黄	内：黄灰	S-1・褐色粒・赤色粒		
54	42	2966	土師器	小蓋	122	2/9		外：灰黄	内：灰黄	S-1・M-1・褐色粒		
55	48	3002	土師器	無	82	5/9		外：黄	内：黄	S-1・L-1・褐色粒・赤色粒	赤影	
56	62	近井溝	灰石器	無		111	7/13	外：灰白	内：灰白	S-1・M-1		
57	59	飯塚	縄文土器	深鉢		124	1/4	外：灰黄	内：灰黄	S-3		
58	66	近井溝	縄文土器	無	38	底面24径		胎：灰白	胎：灰白	褐色粒		
59	63	飯塚	縄文土器	無	30	1/3		胎：黄	胎：黄	褐色粒		
60	67	瓦山溝	縄文土器	無	43	底面24径		胎：明黄	胎：明黄	褐色粒		
61	41	2102	石製土	打製石片	1289	192.3	121		外：	内：		25g、大石製土器
62	50	2825	石製土	打製石片	137	85	24	底面	外：	内：		32g、有影
63	51	2825	石製土	打製石片	127	192.3	127		外：	内：		35g、有影
64	60	北沢	石製土	打製石片	113	192.3	138		外：	内：		47g、有影
65	71	飯塚	石製土	打製石片	131	183.3	130		外：	内：		39g、大石製土器
66	61	飯塚	石製土	打製石片	150	305	30	底面	外：	内：		45g、有影
67	69	飯塚	石製土	打製石片	231	114.5	43	底面	外：	内：		32g、大石製土器
68	69	飯塚	石製土	打製石片	116	170	121		外：	内：		25g、有影
69	70	飯塚	石製土	打製石片	176	114	39	底面	外：	内：		78g、大石製土器
70	71	飯塚	石製土	打製石片	133	123			外：	内：		8g



第4図 グリッド図 (1/300)



第5図 全体平面図 (1/300)

粟田遺跡 (第16次) 平面図 NO.1

2007



第6図 平面図(1) (1/120)

2007

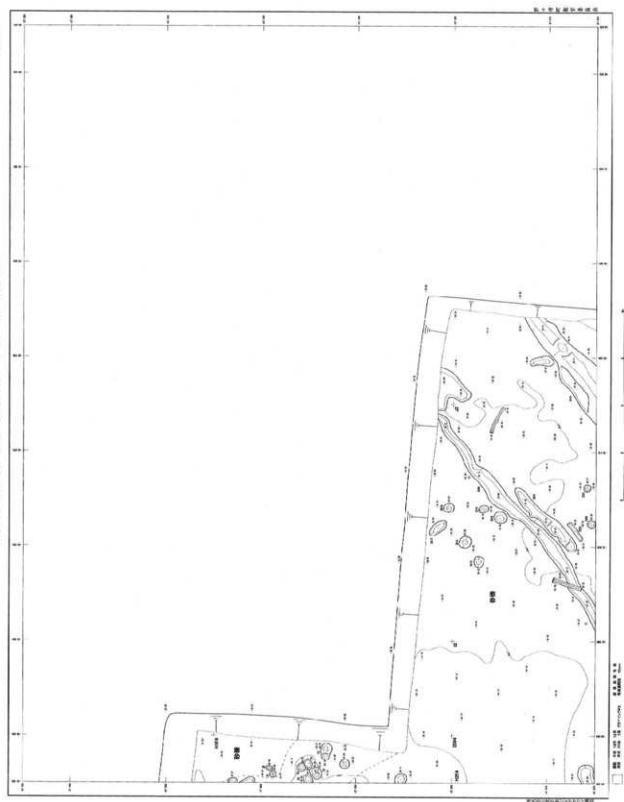
栗田遺跡(第16次)平面図 NO.2



第7図 平面図(2) (1/120)

2007

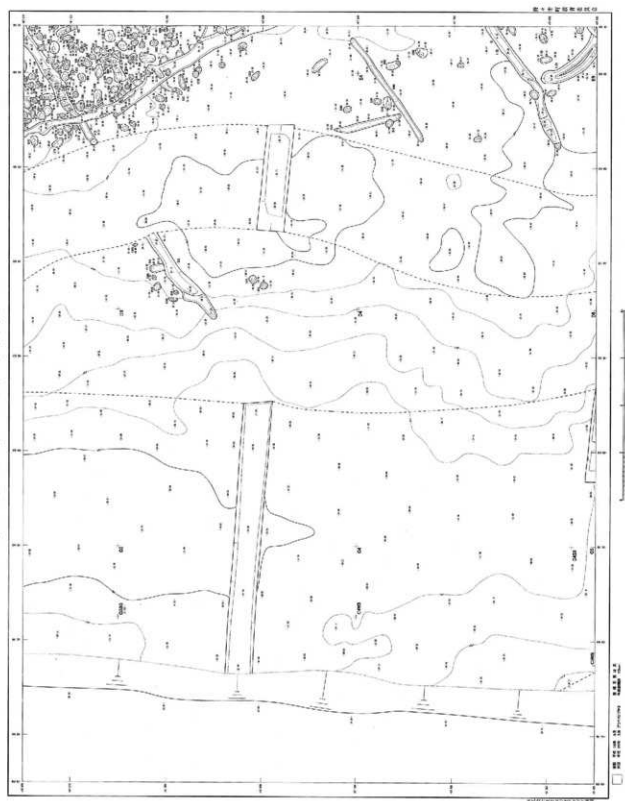
栗田遺跡(第16次)平面図NO.3



第8図 平面図(3) (1/120)

2007

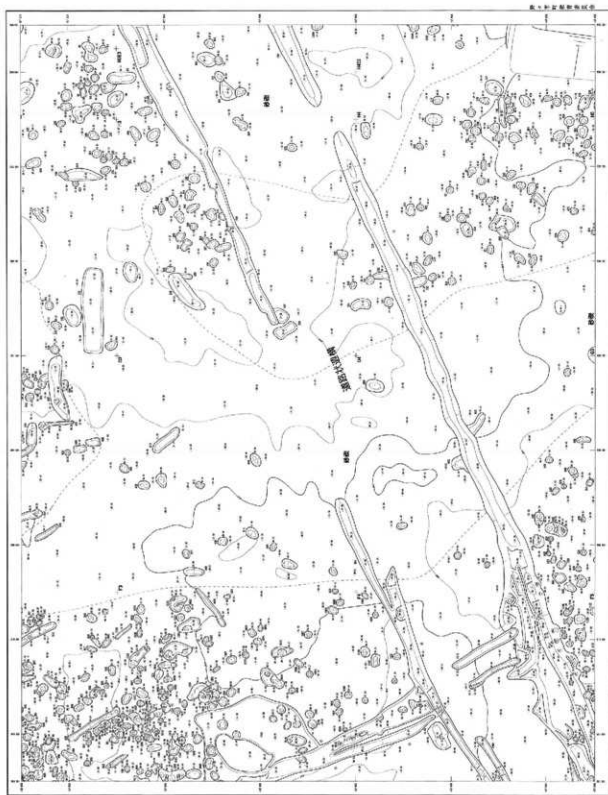
栗田遺跡(第16次)平面図NO.4



第9図 平面図(4) (1/120)

2007

栗田遺跡(第16次)平面図NO.5



第10図 平面図(5) (1/120)

2007

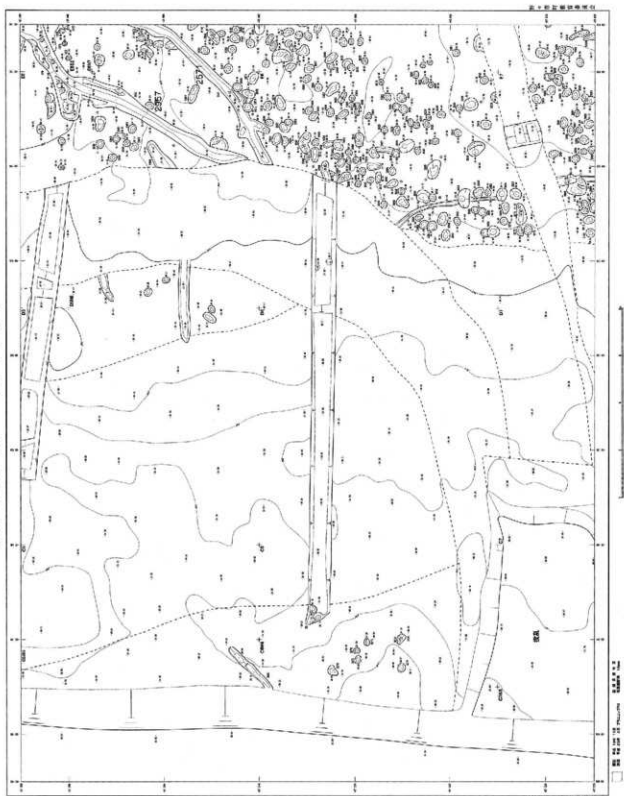
栗田遺跡(第16次)平面図NO.6



第11図 平面図(6) (1/120)

2007

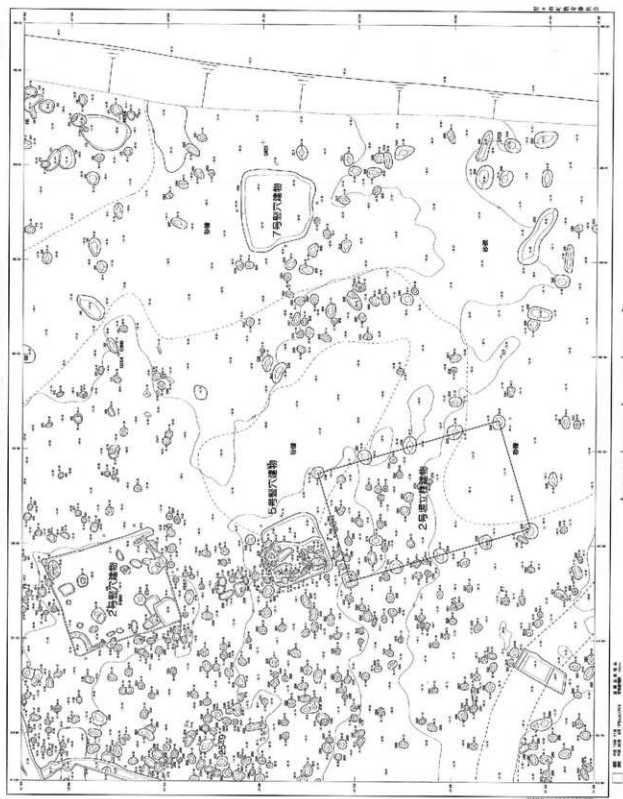
栗田遺跡(第16次)平面図 NO.7



第12図 平面図(7) (1/120)

2007

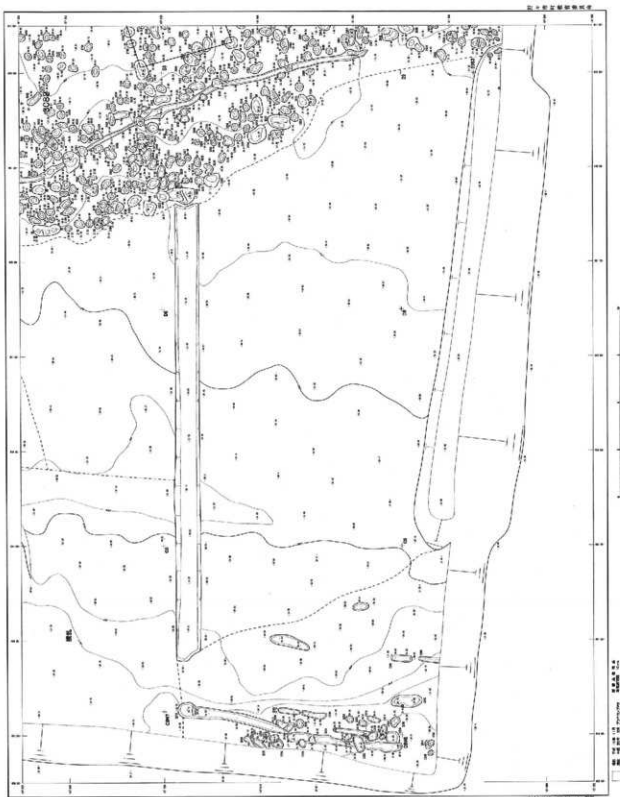
栗田遺跡(第16次)平面図NO.8



第13図 平面図(8) (1/120)

2007

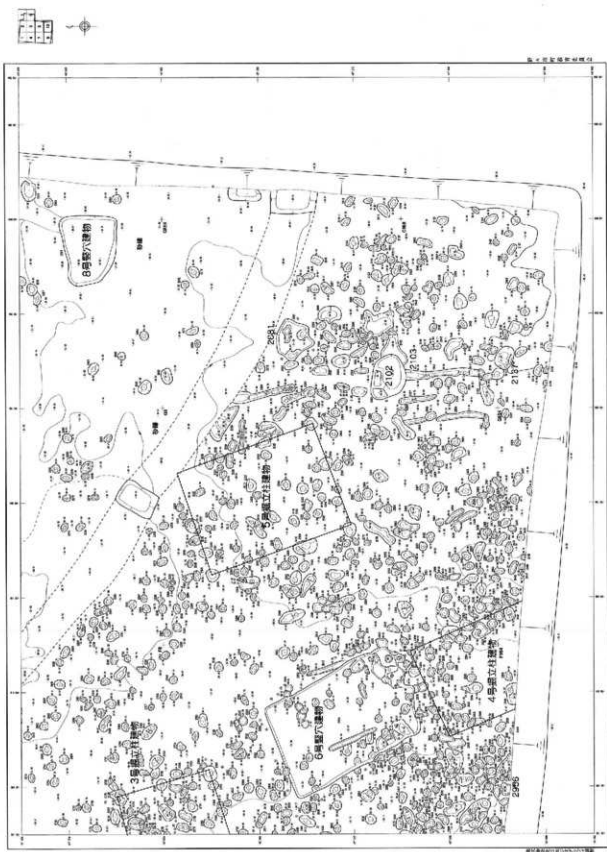
栗田遺跡(第16次)平面図NO.9



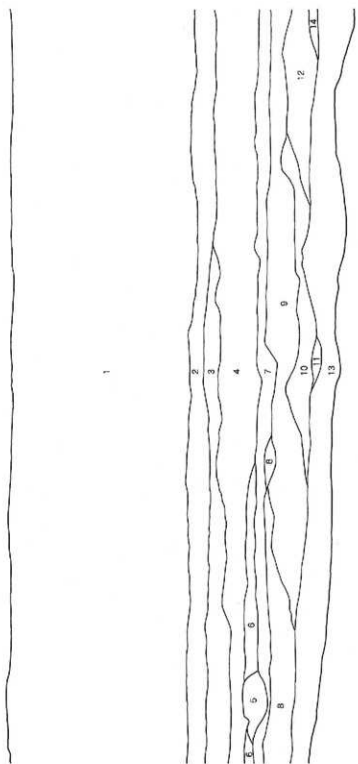
第14図 平面図(9) (1/120)

2007

栗田遺跡(第16次)平面図 NO.10



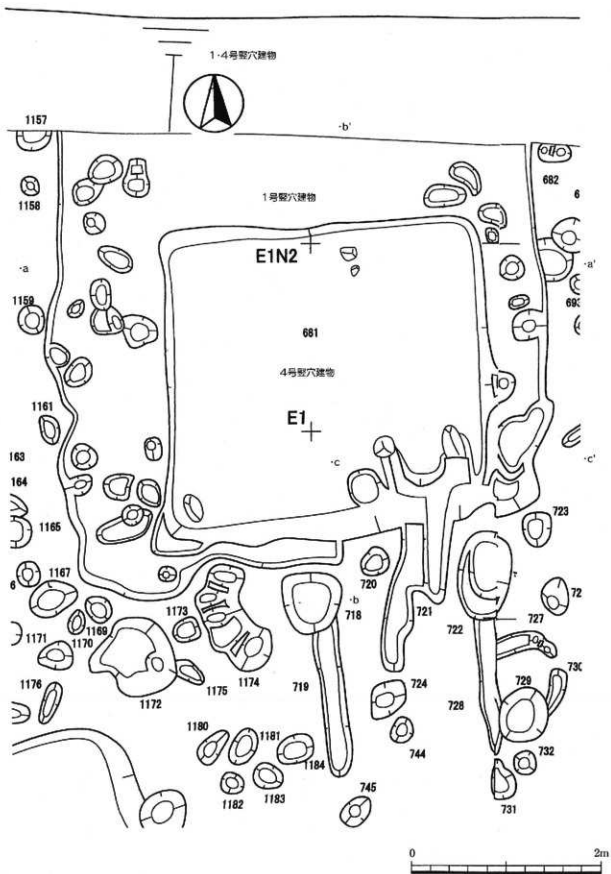
第15図 平面図(10) (1/120)

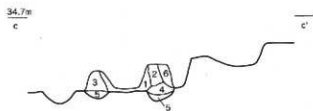
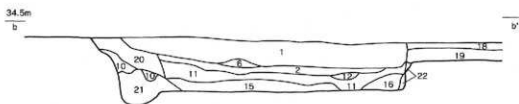
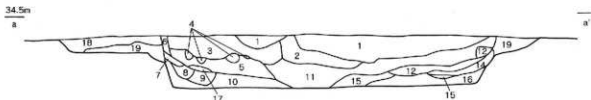


- | | |
|-------|--------|
| 1 砂 | 8 砂礫土 |
| 2 砂礫土 | 9 砂礫土 |
| 3 砂礫土 | 10 砂礫土 |
| 4 砂礫土 | 11 砂礫土 |
| 5 砂礫土 | 12 砂礫土 |
| 6 砂礫土 | 13 砂礫土 |
| 7 砂礫土 | 14 砂礫土 |



第16圖 南側壁面土層断面圖 (1/20)





- 1・4号竪穴跡地
- 1 雑草土
 - 2 灰褐色土に質土を混じり
 - 3 15 黄褐色土に少量赤褐色
 - 4 黄褐色土 硬土、灰褐色の塊
 - 5 硬褐色土に質土を混じり
 - 6 1より硬い
 - 7 硬質土
 - 8 7に質土を混じり
 - 9 6より硬い
 - 10 灰褐色粘質土
 - 11 黄褐色土に質土を少量混じり
 - 12 硬質土
 - 13 12に黄褐色土を多く混じり
 - 14 12よりやや硬い
 - 15 硬質土
 - 16 硬質粘質土
 - 17 硬質粘質土
 - 18 1より硬い
 - 19 黄褐色土、黄褐色土、硬質土の混在 (局部)
 - 20 11よりやや硬い
 - 21 黄褐色粘質土
 - 22 16に黄褐色土を混じり

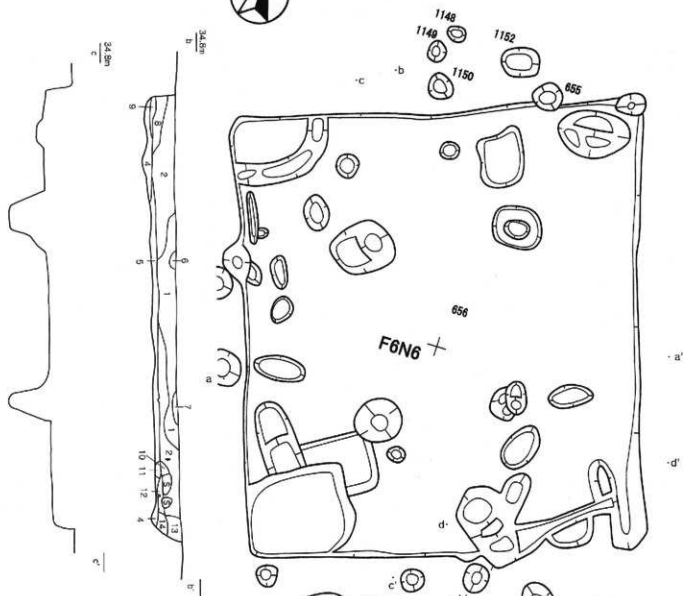
- 4号竪穴跡地カマド
- 1 赤褐色土 (流土)
 - 2 灰褐色土
 - 3 黄褐色粘質土
 - 4 赤褐色粘質土
 - 5 黄褐色粘質土に小礫混じり



第18図 遺構実測図 1・4号竪穴建物(2) (1/40)



2号型穴建物



2号型穴建物

- 1 緑色土
- 2 灰褐色土
- 3 灰色土
- 4 灰色土に灰色土、黄褐色土、褐色・砂礫石
- 5 灰色土に灰色土、黄褐色土 (磁器・硬石)
- 6 黄褐色土
- 7 1よりやや細かい
- 8 2より細かい
- 9 2に黄色土混じり
- 10 砂質土
- 11 10に黄褐色土混じり
- 12 砂に同じ
- 13 2よりやや細かい
- 14 10に黄褐色土混じり



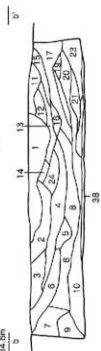
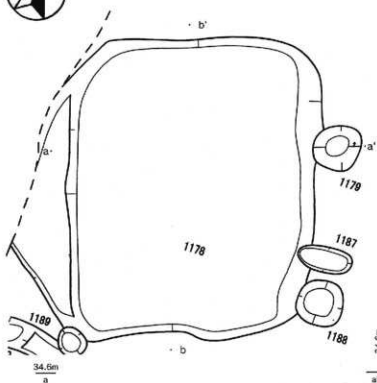
2号型穴建物カマド

- 1 黄褐色磁器土に黄褐色土混じり
- 2 黄褐色磁器土に黄褐色土混じり
- 3 黄褐色土に黄褐色土混じり
- 4 黄褐色土
- 5 黄褐色土



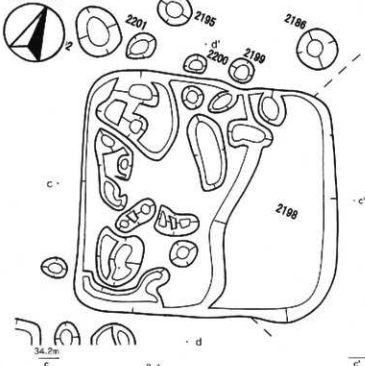
第19図 遺構実測図 2号型穴建物 (1/40)

3号壁穴建物



- 3号壁穴建物
- 1 雑色土
 - 2 黄砂土
 - 3 1に黄砂土を混入
 - 4 雑色土
 - 5 雑色土に褐色土砂少量混入
 - 6 雑色土に褐色土砂少量混入
 - 7 1より粘り強い
 - 8 雑色土、褐色土を7の層に混入
 - 9 雑色土に褐色土砂 (大) 混入
 - 10 雑色土に褐色土砂混入
 - 11 1より粘り強い
 - 12 3に同じ
 - 13 雑色土
 - 14 雑色土
 - 15 1より粘り強い
 - 16 7に同じ
 - 17 1より粘り強い
 - 18 雑色土に褐色土砂少量混入
 - 19 雑色土に褐色土砂少量混入
 - 20 10に同じ
 - 21 雑色土
 - 22 2に同じ
 - 23 雑色土
 - 24 1より粘り強い
 - 25 雑色土
 - 26 2に同じ
 - 27 1より粘り強い
 - 28 1に褐色土砂混入
 - 29 1に同じ
 - 30 雑色土
 - 31 7に同じ
 - 32 褐色土に黄砂土を (大) 混入
 - 33 雑色土
 - 34 3に同じ
 - 35 雑色土
 - 36 雑色土
 - 37 雑色土
 - 38 雑色土に褐色土砂混入 (混入)

5号壁穴建物

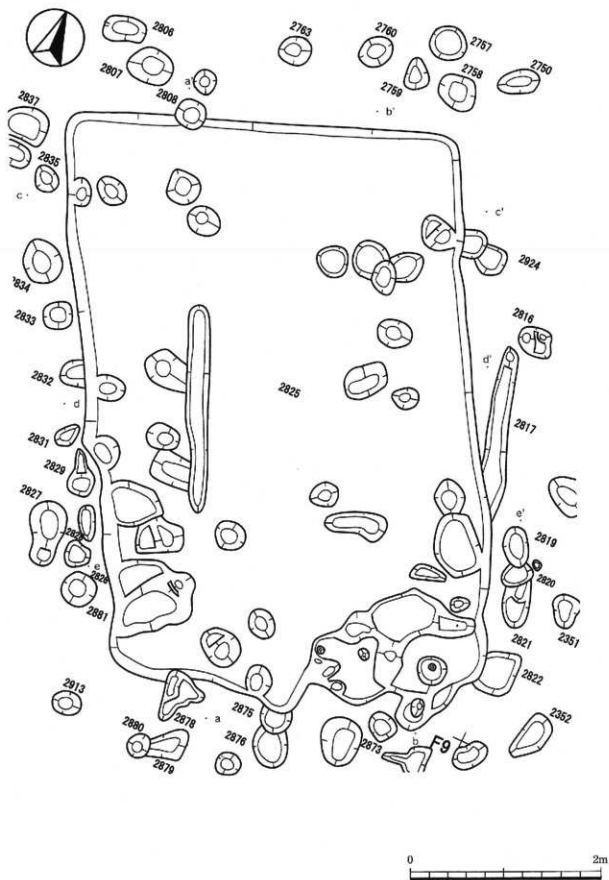


- 5号壁穴建物
- 1 雑色土
 - 2 1に黄砂土を混入 (混入)
 - 3 1に褐色土砂混入
 - 4 雑色土
 - 5 1より粘り強い
 - 6 雑色土
 - 7 雑色土砂少量混入
 - 8 1より粘り強い
 - 9 雑色土

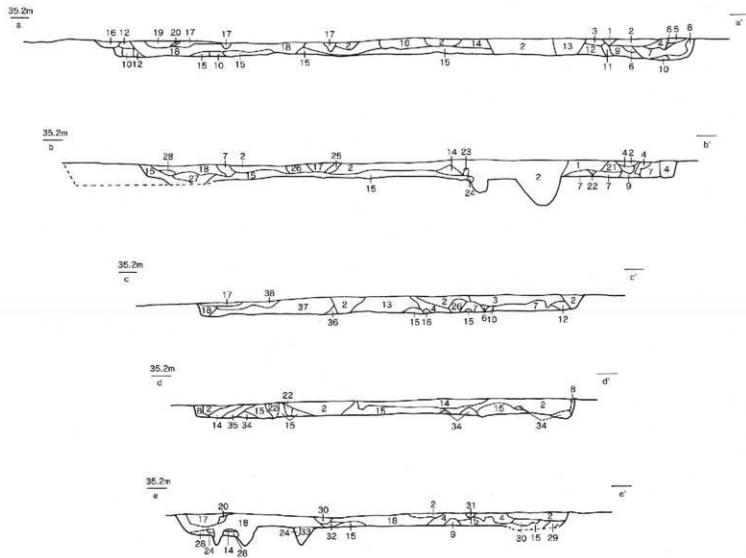


第20図 遺構実測図 3・5号壁穴建物 (1/40)

6号壁穴建物



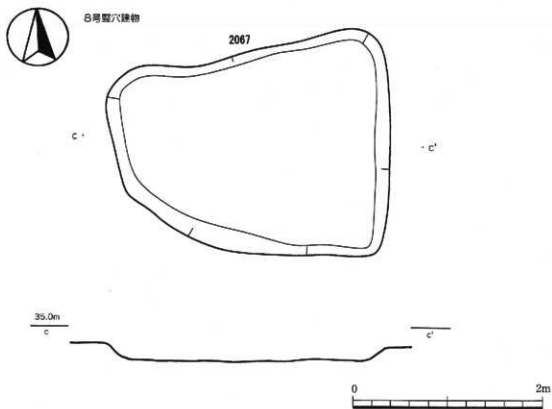
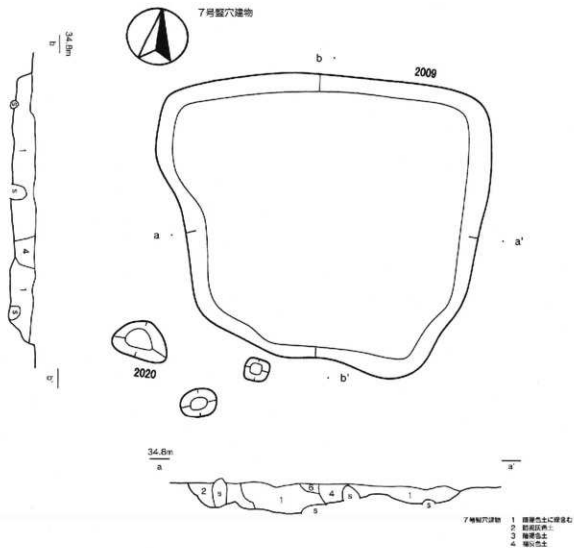
第21图 通横実測图 6号壁穴建物(1) (1/40)



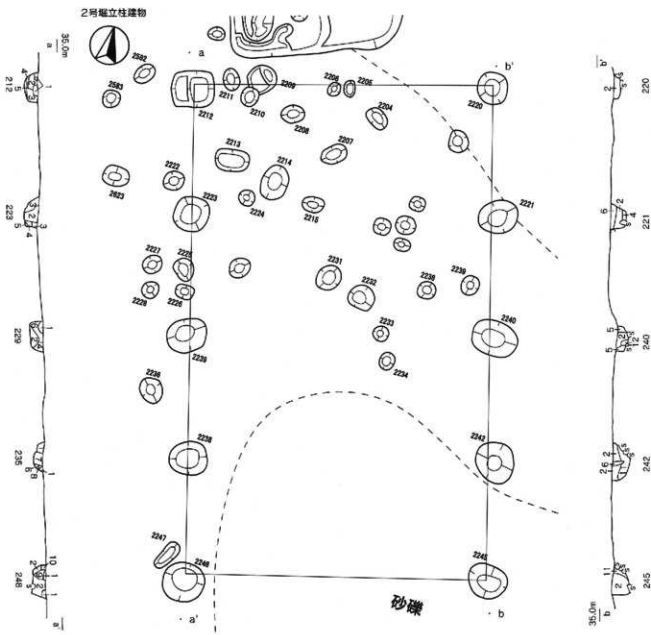
- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 雑草土 | 21 黒褐色土 |
| 2 腐植土 | 22 黒褐色土 |
| 3 1L黄褐色土粒混じり | 23 黒褐色土に黄褐色土粒混じり |
| 4 黄褐色土 | 24 黄褐色土(腐植土)の混在(10%) |
| 5 黄褐色土 | 25 2L黄褐色土、黄褐色土粒混じり |
| 6 4L黄褐色土粒混じり | 26 2L黄褐色土粒混じり |
| 7 腐植土 | 27 6L黄褐色土に黄褐色土粒混じり |
| 8 灰土、黄褐色土の混在 | 28 土より腐植土 |
| 9 灰褐色土に黄褐色土粒混じり | 29 腐植土 |
| 10 黄褐色土、腐植土に黄褐色土粒混じり | 30 黄褐色土に黄褐色土粒混じり |
| 11 灰土腐植土に灰褐色土粒混じり | 31 腐植土 |
| 12 灰褐色土に黄褐色土粒混じり | 32 灰褐色土 |
| 13 灰褐色土に黄褐色土粒混じり | 34 腐植土に黄褐色土粒混じり |
| 14 土より腐植土 | 35 1L黄褐色土粒混じり |
| 15 土より腐植土 | 36 腐植土 |
| 16 腐植土に黄褐色土粒混じり | 37 土より腐植土 |
| 17 灰褐色土 | 38 3L黄褐色土粒混じり |
| 18 土より腐植土 | |
| 19 1L黄褐色土 | |
| 20 1L黄褐色土粒混じり | |



第22図 遺構実測図 6号竪穴建物(2) (1/40)



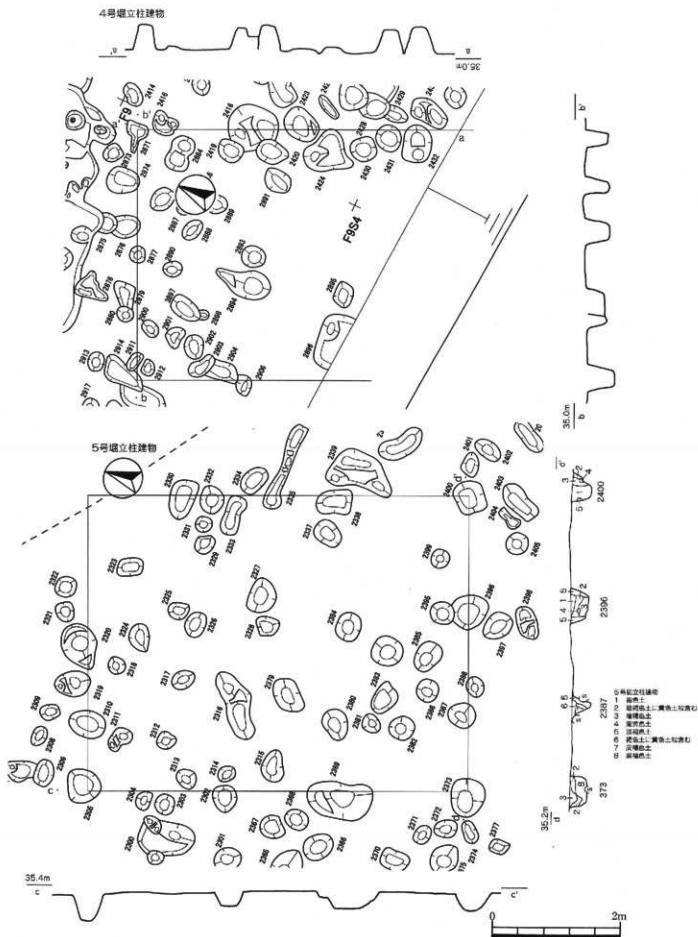
第23図 遺構実測図 7・8号竪穴建物 (1/40)

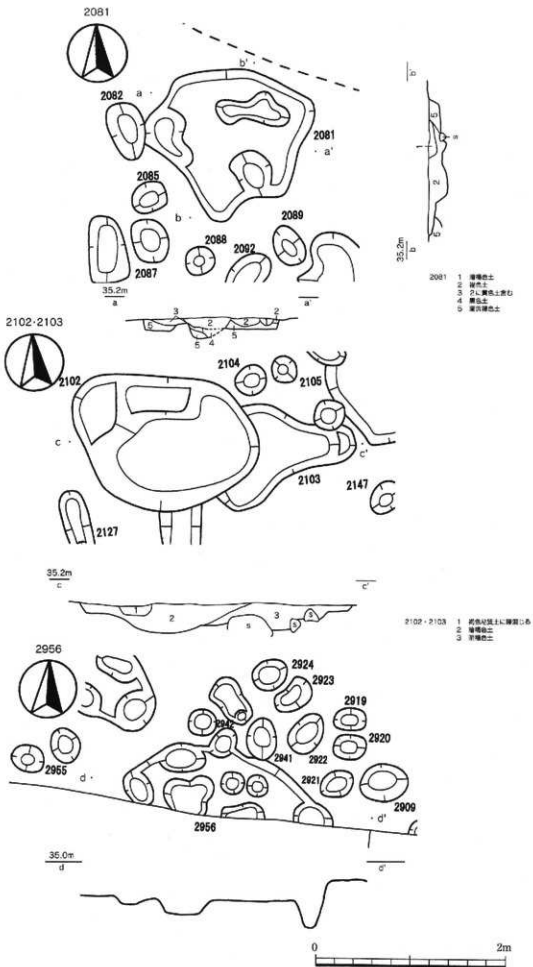


2号竪立柱建物

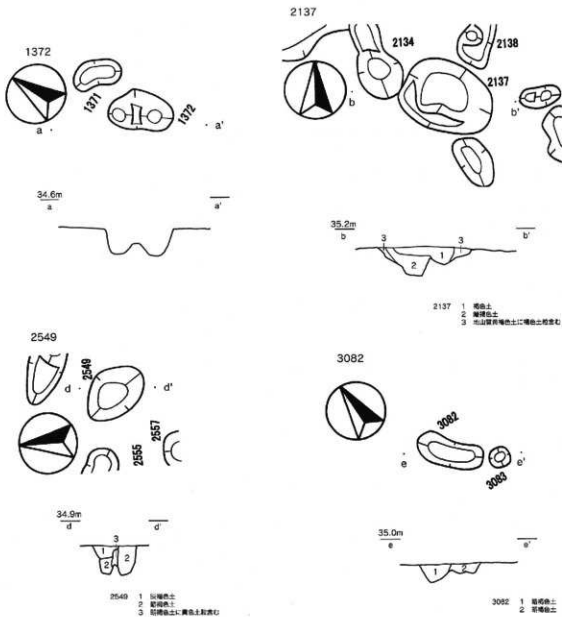
- 2号竪立柱建物
- 1 褐色土・黄色土取夾口
 - 2 海砂土
 - 3 灰褐色土
 - 4 2に黄赤土取夾口
 - 5 黄褐色土と黄色土の境界
 - 6 埴土
 - 7 褐色土
 - 8 灰黄色土
 - 9 黄砂土
 - 10 2に赤土粘土層多ク含む
 - 11 2に少明礫石
 - 12 黄褐色土

第25図 遺構実測図 2号竪立柱建物 (1/60)

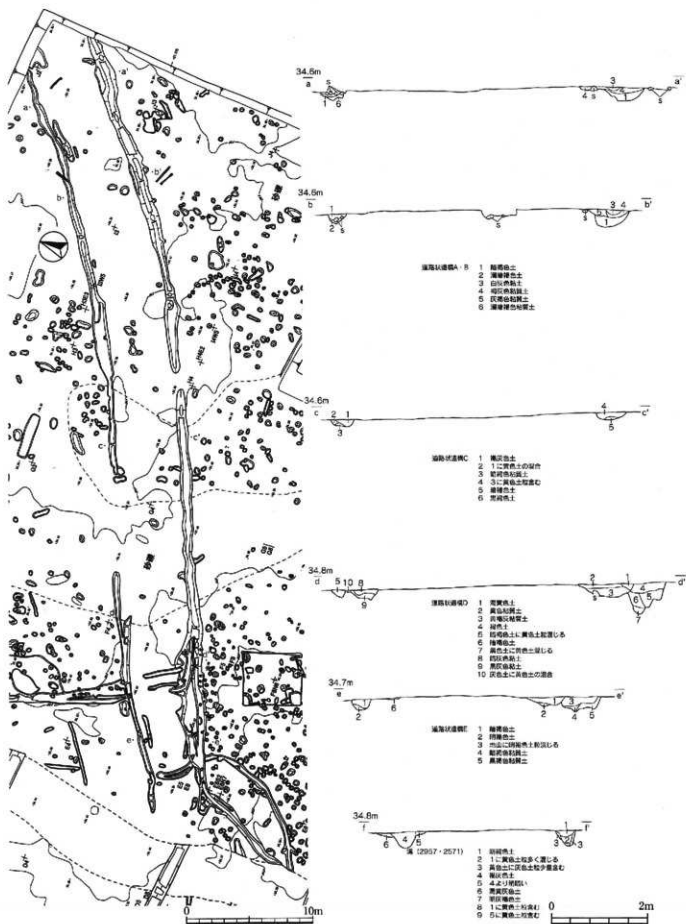




第27図 遺構実測図 土坑2081・2102・2103・2956 (1/40)



第28図 遺構実測図 ビット1372・2137・2549・3082 (1/40)



第29図 遺構実測図 道路状遺構・溝2571・2957 (1/300・1/80)



34.6m
a



平行溝群 A 1 障壁状土
2 1に同色土層の心

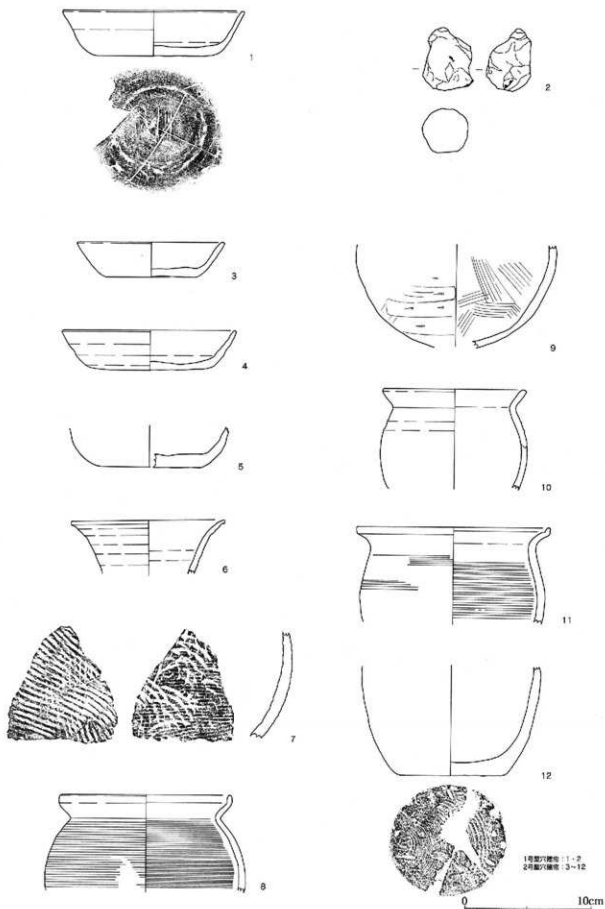
34.6m
b



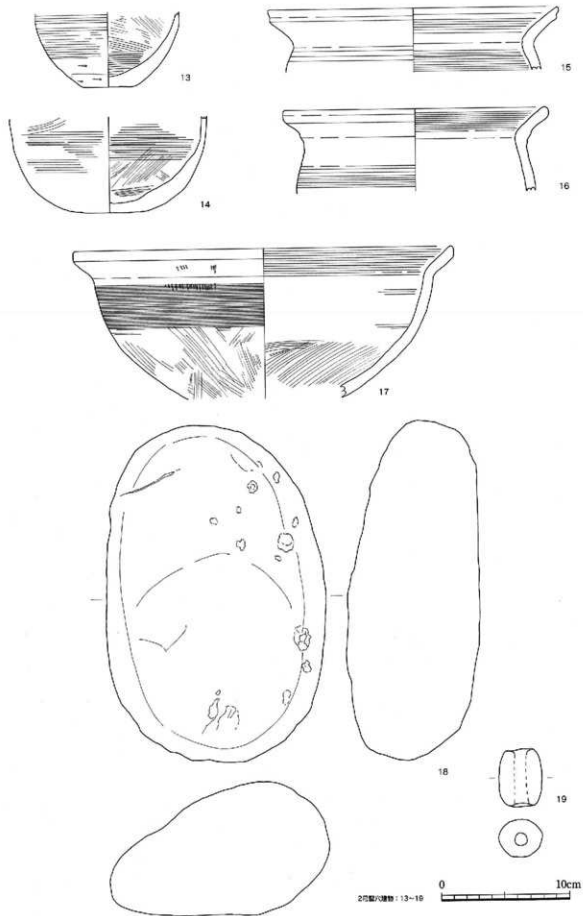
平行溝群 B 1 障壁状土に黄色土層の心
2 障壁状土
3 2より西側傾斜



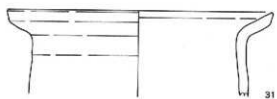
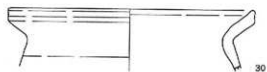
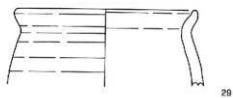
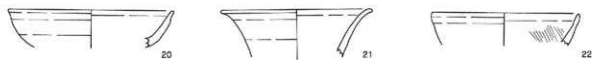
第30図 遺構実測図 平行溝群A・B (1/200・1/40)



第31圖 遺物実測図(1) (1/3)



第32図 遺物実測図(2) (1/3)

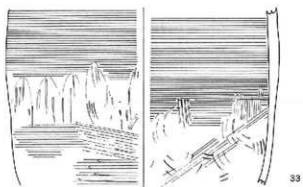


3号型(群)物：20-22

4号型(群)物：23-32



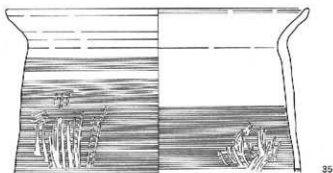
第33图 遺物実測図(3) (1/3)



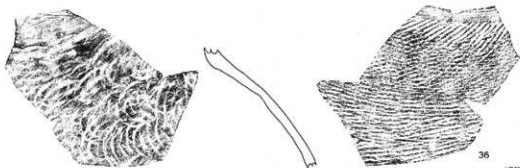
33



34



35



36

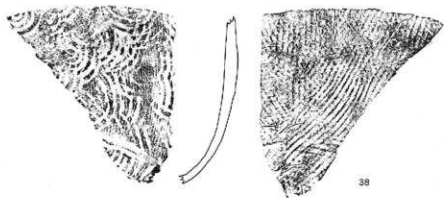
4件製/遺物: 33-36

0 10cm

第34図 遺物実測図(4) (1/3)



37



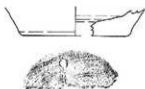
38



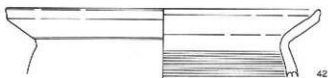
39



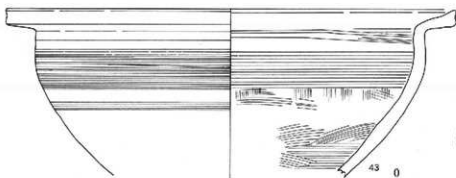
40



41



42

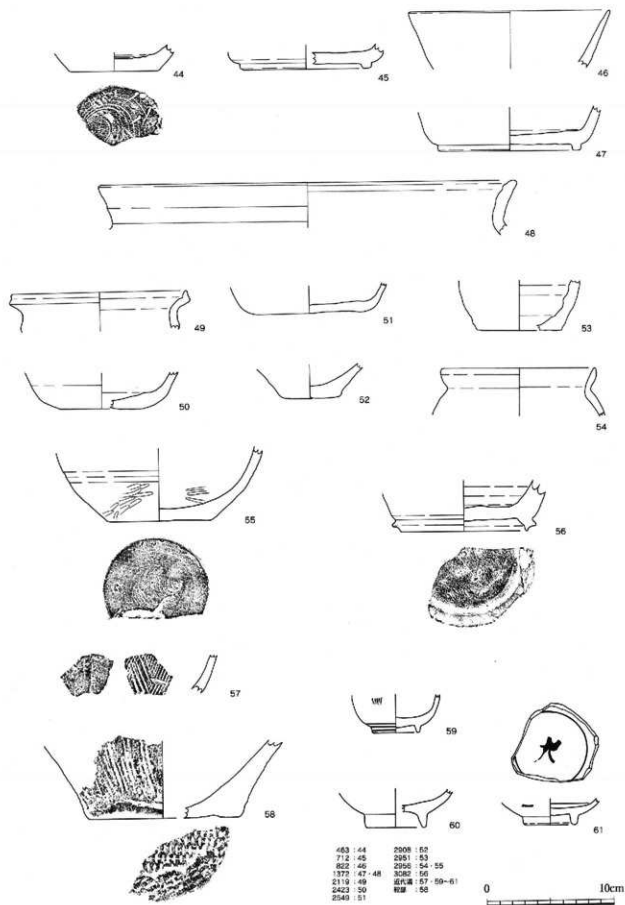


43

5等製孔群数：37
6等製孔群数：38-43

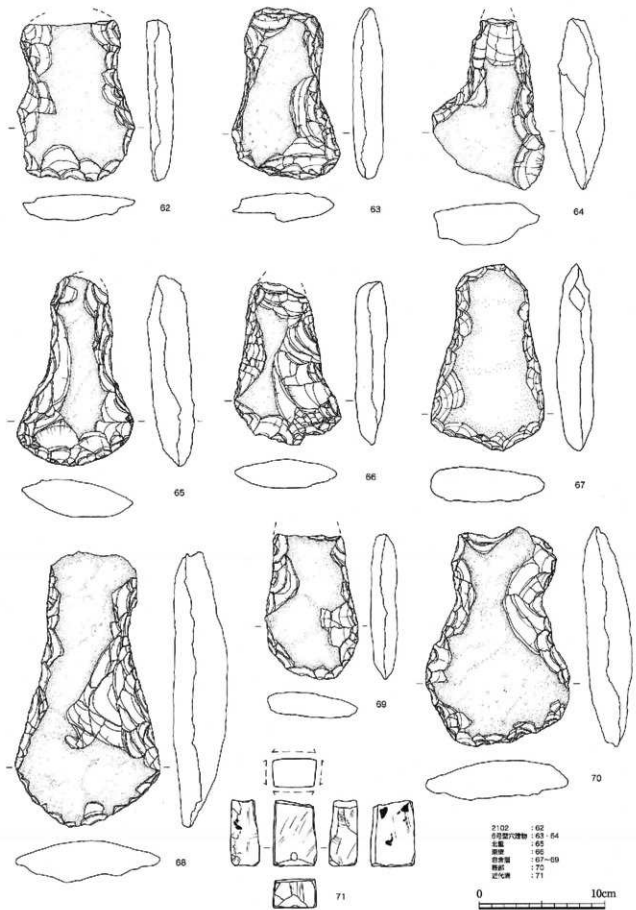


第35圖 遺物実測図(5) (1/3)

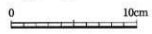


463	44	2908	62
712	45	2951	53
852	46	2996	54-55
1372	47-48	3082	56
2119	49	3082	57-61
2423	50	3082	56
2549	51		

第36圖 遺物実測圖(6) (1/3)



2100 : 62
 全形器穴遺物 : 63-64
 石槌 : 65
 石斧 : 66
 石斧頭 : 67-69
 石斧 : 70
 石斧頭 : 71



第37圖 遺物実測図(7) (1/3)



調査区北側全景(南から)



調査区南側全景(北から)



調査区西側全景(北西から)



1・4号壑穴建物完壘(北から)



1・4号壑穴建物土層断面(南から)



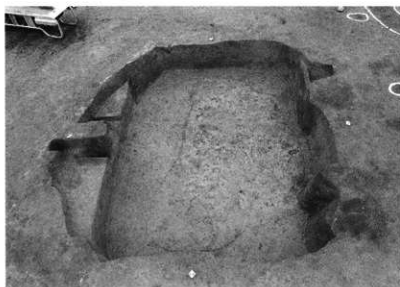
4号壑穴建物カマド(北から)



2号壑穴建物貼床面(北から)



2号壑穴建物完堀(北から)



3号壑穴建物貼床面(南から)

3号壑穴建物完堀(南から)



5号壑穴建物貼床面(北から)



5号壑穴建物完堀(西から)





6号堅穴建物貼床面(北から)



6号堅穴建物遺物(43)出土状況



6号堅穴建物完壘(北から)

7号堅穴建物完堀(東から)



1号堀立柱建物完堀(南から)



2号堀立柱建物完堀(北から)





3号堀立柱建物完堀(北から)



1・3・4号壑穴建物・1号堀立柱建物(北から)



4号壑穴建物・2号堀立柱建物(北から)

土坑2081完掘(南東から)



土坑2102完掘(南東から)



道路状遺構(東から)

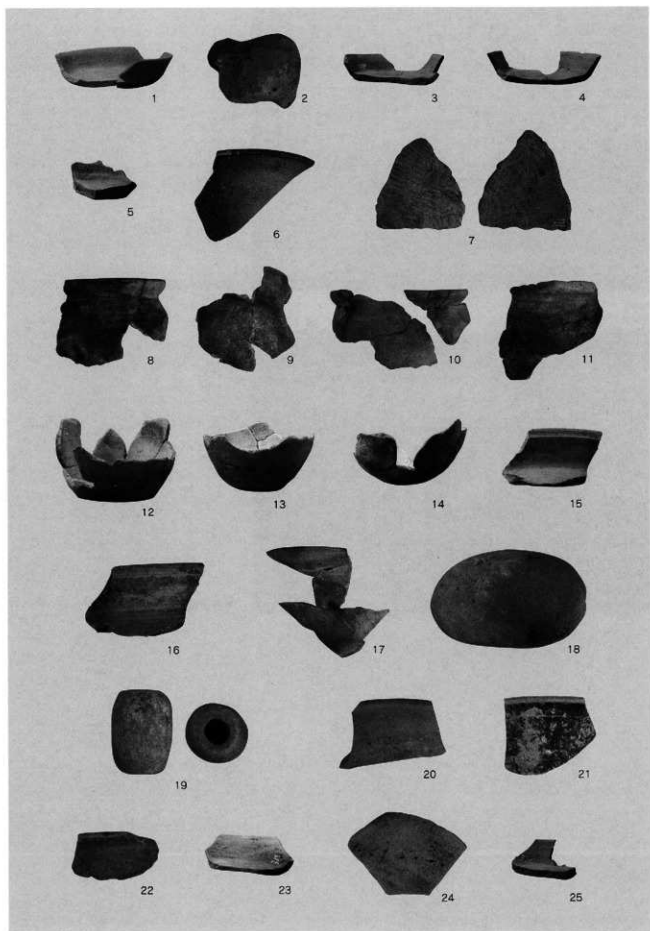


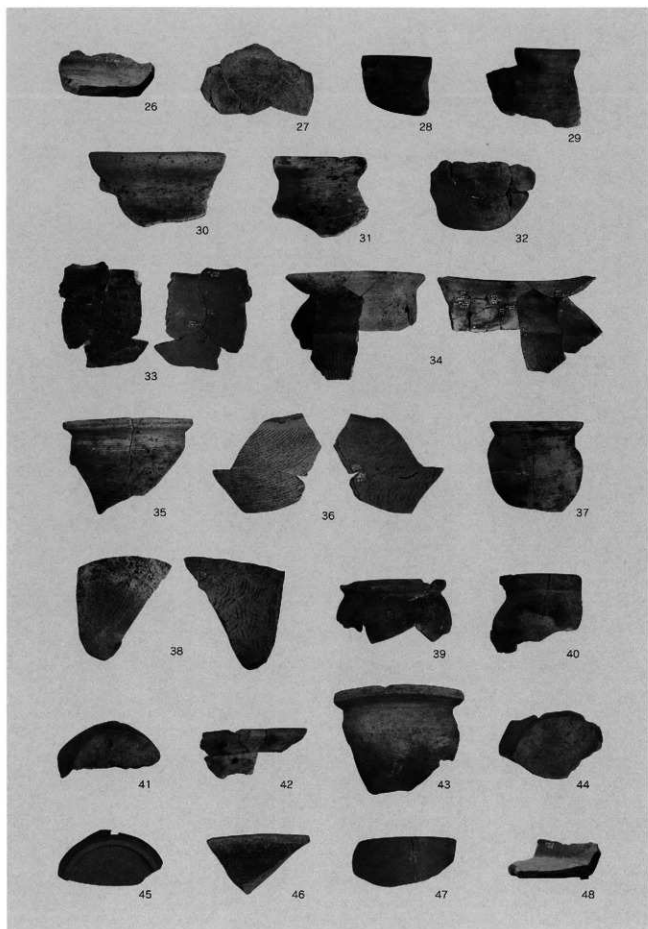


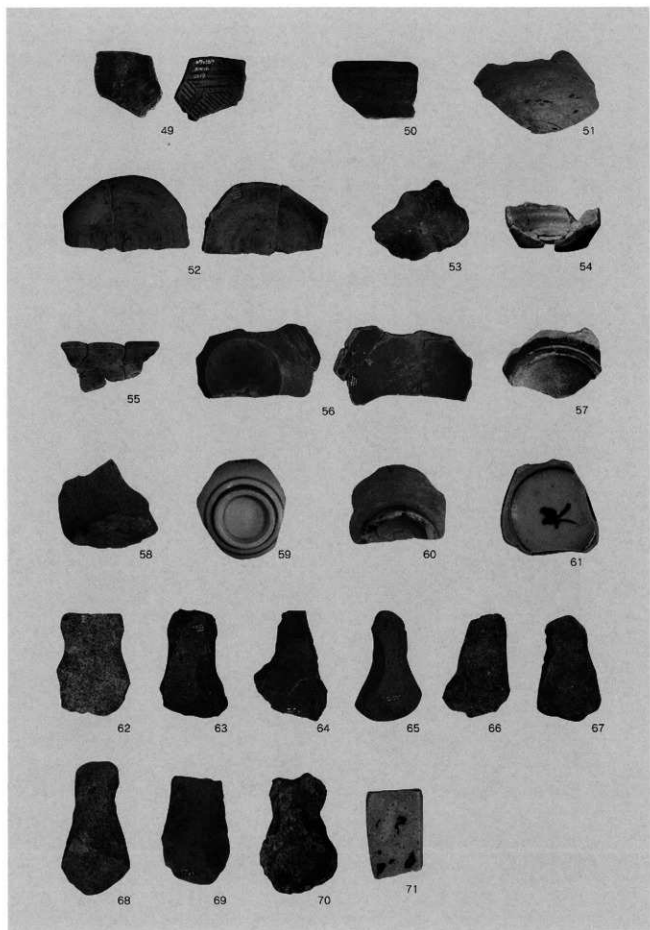
溝2571・2957(北から)



平行溝群A(北から)







報告書抄録

ふりがな	あわだいせき							
書名	栗田遺跡							
副書名	津田駒工業株式会社野々市工場増築用地に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	1							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	水野 勝章							
編集機関	野々市町教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県石川郡野々市町三納18街区1 Tel: 076-227-6122							
発行機関	津田駒工業株式会社・野々市町教育委員会							
発行年月日	西暦 2009年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
栗田遺跡	野々市町 栗田	17344	16008	36度30分30秒	136度20分30秒	20070416 20071218	6.026	工場施設増築
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
栗田遺跡	集落跡	縄文、古代		竪穴建物、掘立柱建物、土坑、道路状遺構		須恵器、土師器、石器		
要約	<p>古代の集落跡を確認した。調査区の西側は自然の谷地形が南北に伸びている。既往の調査によって東側にも南北に伸びる谷地形を確認しており、集落跡は谷と谷の間にある微高地上に位置している。集落跡には竪穴住居と掘立柱建物が数棟ずつ点在し、その周辺には耕作地の広がる散居村的な様相を呈している。</p>							

津田駒工業株式会社野々市工場増築用地に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

粟田遺跡（第16次調査）

発行日 平成21年3月31日
発行者 野々市町教育委員会
〒921-8510
石川県石川郡野々市町三納18街区1
電話 076-227-6122
bunka@town.nonoichi.lg.jp
印刷 前田印刷（株）

